

2 平成9年度重点目標と成果

- (1) 施設の充実・整備、利用しやすい施設づくり
 - ① 施設の充実・整備
 - ア 全所員が施設、設備、エリア内外の活動場所についての知識を持ち、より有効活用ができるよう、活動場所の整備・充実につとめた。
 - イ 活動場所での現地所員研修と自然環境の調査を実施した。
 - ② 利用しやすい施設づくり
 - ア これからの自然の家のあり方について研究するとともに、自己研鑽に努めた。
 - イ 多様な団体に対応できる受入れの確立を図るとともに、所員の柔軟な姿勢がとれるよう努めた。
- (2) 助言・意見の具現化と運営の確立・改善
 - ① 関係諸機関の助言の具現化
 - ア 運営委員会等諸機関の助言を受け、所の運営確立・改善の指針とした。
 - ② 利用団体の意見の具現化
 - ア 利用後の代表者による引率者記録簿を分析するとともに、普段の利用者の声に耳を傾け、可能な限り所の運営に生かすよう心がけた。
- (3) 活動種目の開発
 - ① 海浜の特徴を生かす活動の研究
 - ア いかだ乗り、磯遊び、釣り等の海浜活動の内容充実を図った。
 - イ 特徴ある海岸地形を活用した活動種目の研究に努めた。
 - ② エリア内活動種目の開発
 - ア マウンテンバイクコースやロープコース等新しい活動種目の導入など活動内容の充実を図った。
 - イ 利用者の便宜を考え、エリア内での活動の充実と種目開発に努めた。
- (4) 主催事業の開催と魅力ある事業の開発
 - ① 特色ある主催事業の開催
 - ア 事業の内容を吟味し、ゆとりある日程の中で、種々の自然体験と他家族の交流・ふれあいが深まる主催事業を推進した。多くの参加者があり好評であった。
 - イ 学校団体・社会教育関係団体引率者体験宿泊においては、利用時の活動に直結する内容を厳選して実施した。
 - ② 関係諸機関との連携による事業の開発
 - ア 教育委員会、教育事業所、公民館等各機関との連携による各研修会の実施、並びに特色ある事業の研究開発に努めた。
- (5) 現代的課題を考慮した活動・事業の研究
 - ① 現代的課題に対応できる活動種目の開発
 - ア 青少年の持つ現代的課題を把握し、対応できる活動種目について研究を進めた。
 - ② 事業の中での課題追求
 - ア 主催事業・受入事業の中で生ずる課題の追求とその課題解決のための努力をした。

(6) 安全管理の徹底

- ① 施設・設備の安全点検
 - ア 定期安全点検の励行に努めた。
 - イ 随時補修の徹底を図った。
- ② 給食施設・設備の衛生管理
 - ア 給食委員会を随時開催し、食品並びに施設設備の衛生管理の徹底を図り、食中毒防止に努めた。
 - イ 野外炊飯、弁当給食時の衛生対策の徹底を図った。
- ③ 利用者の安全確保と事故防止
 - ア 利用者の健康状態の把握及び活動中の安全指導の徹底を図った。
 - イ 活動場所の安全確保とコース点検の徹底を図った。
 - ウ 事故等有事の場合に迅速に対応できる体制づくりに努めた。
- ④ 火災予防体制の強化
 - ア 防火・避難訓練を計画的に実施した。
 - イ 山火事防止の呼びかけ、エリア内の防火パトロールを実施した。
 - ウ 消防施設の自主点検と委託業者、消防署との連携強化に努めた。

第2節 施設・設備の概要

1 所在地

いわき市久之浜町田之網字向山53

2 宿泊定員

- 本館定員 300名(和室28室)
- ロッジ定員 150名(15棟)
- テント定員 100名(25張)

3 敷地面積

- 363,236㎡

4 建物面積

- 6,949.94㎡
- 中心施設
 - 本館(宿泊室、オリエンテーションホール、研修室、野外学習室、事務室、食堂、浴室等)
 - 体育館
- 野外施設
 - 管理棟、ロッジ、炊飯棟、便所等

5 野外活動施設面積

- つどいの広場 7,000㎡
- 多目的広場 8,890㎡
- 自然観察園 4,050㎡

6 設備備品等

- 体育館(バレーボールコート2面、バスケットボールコート1面、バドミントンコート2面、卓球台3台、